

# 解答



## 『かなひろい②（花咲か爺さん）』

楠山正雄の作品を読みながら「か・き・く・け・こ」に

### ○をつけましょう

むかし、むかし、あるところに、おじいさんとおばあさんが  
ありました。しょうじきなひとのいいおじいさんとおばあさ  
んどうしでしたけれど、こどもがないので、かいいぬのしろ  
を、ほんとうのこどものようにかわいがっていました。しろ  
も、おじいさんとおばあさんに、それはよくなつていまし  
た。すると、おとなりにも、おじいさんとおばあさんがあり  
ました。このほうは、いけないよくばりのおじいさんとおば  
あさんでした。ですから、おとなりのしろをにくらしがって、  
きたならしがって、いつもいじのわるいことばかりしていま  
した。あるひ、しょうじきおじいさんが、いつものようにく  
わをかついで、はたけをほりかえしていますと、しろもいっ  
しょについてきて、そこらをくんくんかぎまわっていました  
が、ふと、おじいさんのすそをくわえて、はたけのすみの、  
おおきなえのきのきのしたまでつれていって、まえあしでつ  
ちをかきたてながら、「ここほれ、ワン、ワン。ここほれ、ワ  
ン、ワン」となきました。

○の数 合計 40 個

